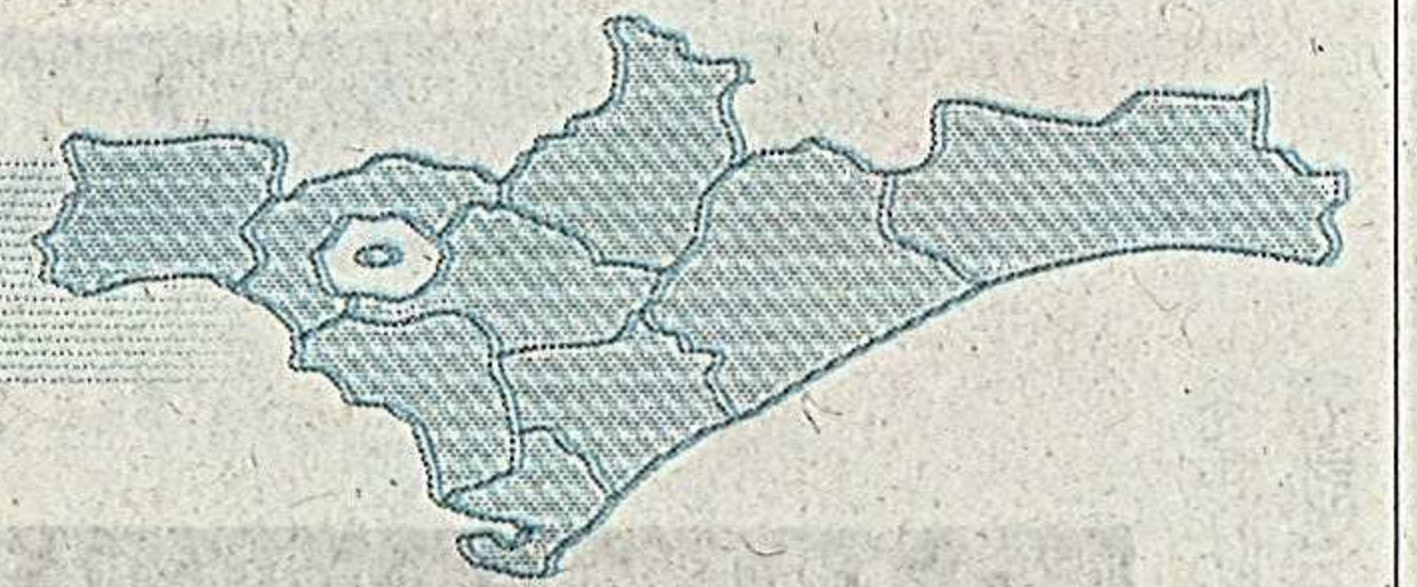




隠した涙 あふれた感謝

女性ノッカー 続けて良かった

熱戦が繰り広げられている第106回全国高校野球選手権大会南北海道大会室蘭支部予選もきょう29日が最終日。負ければ引退。選手だけでなく、チームを支えるマネージャーにとっても最後の夏だ。大会2日目の第1試合前。「いくよー!」、大きな声が響いた。室蘭清水丘マネージャー兼ノッカーを務める福島ゆらさん(17)の声だ。各ポジションを呼び、仲間がグラウンドの感触を確かめられるよう、一本一本、丁寧にノックを届けた。

(小笠原皓大)

「もつ二度、ノックを ームに、野球の神様がほ打ちたい」。そう願う、ほ笑むことはなかった。ベンチから誰よりも大きな声援を送った。勝ちを 気持ちでいっぱいだった。つかみかけた試合も、守 備の乱れから失点する手 選手の前で絶対に泣か

室蘭清水野球部・福島ゆらさん

ないと誓った。九回、アウトを示す赤ランプが一つ、二つと灯(とも)ると、スコアを付けていた目から涙がこぼれた。願った勝利には届かず、応援席へのあいさつを終えると、帽子で顔を覆った。試合後、これまでを振り返り「(野球)最初は好きじゃなかった」と明かした。小学5年の冬、野球好きな父・卓さん(44)の勧めもあり、弟とともに驚別ランナースに入団。中学校進学後も野球部に入部し、プレーするうちに好きになり、没頭していた。「何度も辞めようと思った」。同校野球部には女子部員がいなかったこともあり、学校生活や人間関係で悩みが尽きなかったという。3年間やり切れたのは「野球が好き」な気持ちと3年生7人、後輩たちの存在。「力になりたい」と作ったお守りを手に、「続けていて本当に、本当に良かった」と涙をぬぐった。

「お疲れさま」。勝つて喜ぶ娘を見届けることはできなかった卓さんがつぶやいた。「大変なことが多かったと思う。3年間、楽しそうな姿を見せてくれて良かった」と目を細めた。

頬にはまだ涙跡が残る。それでも前を向いた。「(受験や学校生活に)気持ちを切り替えなきゃ」



④ノックを打つ室蘭清水の福島マネージャー ⑤試合に敗れ、顔を覆う福島さん ⑥作ったお守りを手にする3年生メンバーと福島さん(前列左から2人目)＝23日、とましんスタジアム

